

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

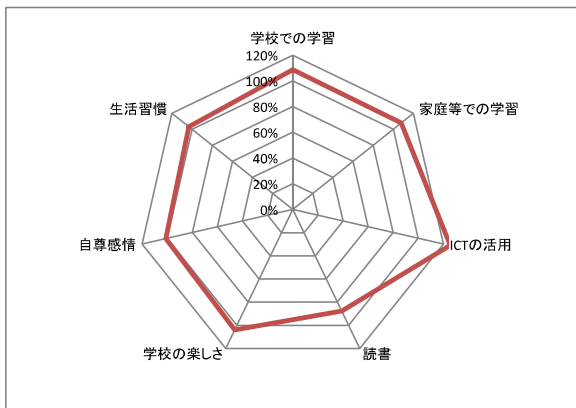
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均をやや上回った。特に「読むこと」に関しては、登場人物の行動や気持ち、相互関係などについて叙述や描写を基に捉えることができる。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「話すこと」について課題が見られる。言葉の働きや、話し言葉と聞き言葉の違いを押さえる必要がある。また、記述式の正答率が低いことも課題である。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や気持ち、相互関係などについて叙述や描写をもとにとらえる問題 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしながらかつ計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題 相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉える問題 	
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均をやや上回った。特に「数と計算」の領域についてはよく理解ができているが、二つの数の最小公倍数を求める問題だけは正答率が全国平均を下回っている。 「数量の変化と関係」の領域の、割合や比例などに関する問題につまずきが見られる。生活体験と結び付け具体的な事象を通して理解を深めるなどの工夫をする必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 百分率で表された割合を分数で表す問題 出題された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことの意味を問う問題 二つの数の最小公倍数を求める問題 	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均を上回った。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で全国平均正答率を上回り、無回答率も低い。 どの領域においても、選択式・短答式に比べると記述式の問題への無回答率が高くなっている。自分の考えを書いて表現する力を育てる必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の名称や正しい使い方を答える問題 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 体のつくりの特徴を基に、ナノホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問題 継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業時間以外に、平日1時間以上勉強していると回答した児童の割合が全国平均を大きく上回り、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いと言える。 5年生のときの授業で、ICT機器を週3回以上活用したと回答した児童の割合が全国平均を大きく上回り、積極的にICTを活用した教育活動に取り組んだ成果が見られる。 読書が好き、また普段1日1時間以上本を読むという児童の割合が全国平均に比べると低い。全校平均と比較し、家にある本の本数が少ないことや、放課後習い事に時間を割く児童が多いことが要因として考えられる。 家で自分で計画を立てて勉強をしているという児童の割合が全国平均を下回った。家庭での学習時間は多いが、宿題や課題にかかる時間であり、自ら進んで取り組むことができていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> どの教科においても既習の内容を忘れていく傾向があるため、授業中の問題解決場面で既習の内容を確認する等の工夫をする必要がある。 児童の考えを表現する際にもICT機器を活用することで、自分の考えを伝えたり多様な考えに触れたりする機会を増やすようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 優れた自学ノートの紹介やおすすめのテーマの紹介などの取組を通して、自主学習への興味・関心を高める。 読書週間の取組について保護者に周知し、本を読むことの大切さやよさについて情報を発信していく。
